

令和3年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人びわ湖芸術文化財団 滋賀県立文化産業交流会館	
施 設 名	滋賀県立文化産業交流会館	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	12,612	(千円)
	公 演 事 業	8,315 (千円)
	人 材 養 成 事 業	1,885 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	2,412 (千円)

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	長栄座伝承会「むすひ」 ～東西を結び、刻（とき）を結び、乾坤（あめつち）を結ぶ～	1. 令和3年7月31日 (土)	◆演目：【第1部】「(邦楽アラカルト)湖国神在祭～むすひの芸能選～」、【第2部】駅名連歌「まいばらはつ」(JR京都線:米原～京都)、【第3部】「響鳴～日本三大弁財天と宇賀神将十五王子～其の一(江島弁財天)」 ◆主な出演者:萩岡松韻(山田流箏曲演奏家)、渡邊荀之助(宝生流シテ方)、野村祐子、竹澤悦子、(7/31):高橋右任(宝生流シテ方)、新内志賀、山本邦山、(8/1):レイ・プラアニ・フラスタジオ、田村てる ほか ◆主なスタッフ:久保田敏子(監修・京都市立芸術大学名誉教授)、中村豊(企画・構成・演出)、武元賀寿子(8/1:洋舞監修) ほか	※	7/31:370 8/1:370
		2. 令和3年8月1日 (日)		滋賀県立文化産業交流会館イベントホール内 特設舞台「長栄座」	※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和3年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	滋賀県次世代創造発信事業 邦楽専門実演家養成事業	◆稽古:令和3年9月 ~令和4年2月までで 計19回 ◆定期公演:2 月11日(金・祝) ※ライブ配信も行った	◆コース分け A: 箏アンサンブル習得コース (12名参加) B: ユース箏アンサンブル習得コース (35歳未満) (1名参加) C: 特別集中レッスンコース (音楽大学邦楽科卒業レベル) (5名参加 ※Aと重複参加3名) ◆主な演目:「旅路」(野村正峰作曲)、 「典雅」(野村祐子作曲)、「都踊」(宮城 道雄作曲) ほか ◆主な出演者:滋賀 県邦楽専門集団「しゅはり」、養成事 業修了生、客演:川崎貴久(尺八)、饗 場凱山(尺八) ◆スタッフ:久保田敏 子(監修)、講師:野村祐子、池上眞吾、 片岡リサ、吉澤延隆	目標値	16
		滋賀県立文化産業交流 会館 小劇場		実績値	15

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和3年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	滋賀県次世代創造発信事業 古典芸能キッズワークショップ	◆稽古:令和3年8月から11月までで計9回(※9月は中止・10月に振替) ◆成果発表会:11月7日(日)	◆演目:箏部門:「もみじ」「赤とんぼ」、日本舞踊部門:「花ばたけ」「さくらさくら」・長唄「藪のうぐいす」・長唄「菊づくし」・長唄「手習子」 ◆講師:箏部門:田中久美子、橋本桂子、田中千鶴、島田彩寧、片岡リサ(監修) 日本舞踊:花柳風春、花柳風弥	目標値	50(箏25、日本舞踊25)
		滋賀県立文化産業交流会館 小劇場・練習室		実績値	44(箏19、日本舞踊25)
2	滋賀県次世代創造発信事業 箏曲ジュニア・アンサンブル	◆稽古:令和3年8月から11月までで計6回(※9月は自主練習) ◆成果発表会:11月7日(日)	◆演目:「二つの個性」 ◆講師:片岡リサ(大阪音楽大学邦楽科特任准教授)	目標値	8
		滋賀県立文化産業交流会館 小劇場・練習室		実績値	9
3	滋賀県次世代創造発信事業 和のじかん	◆募集期間:令和3年7月~9月 ◆実施期間:令和3年11月~令和4年1月 計13校	◆派遣アーティスト:片岡リサ(箏)、吉澤延隆(箏・十七弦)、ゆらぎ〔伊藤志野:箏、岩本みち子:尺八〕 ◆派遣アーティスト育成連携:大阪音楽大学 ◆プログラム連携:丸三ハシモト株式会社	目標値	10校(約500名)
		県内の小中学校		実績値	13校(614名)
4	滋賀県次世代創造発信事業 アートのじかん	◆募集期間:令和3年7月から9月 ◆実施期間:令和3年12月~令和4年1月 計5校	◆派遣アーティスト:おちゃのま〔大石橋輝美、西谷夏、吉田周平〕、Lapin〔吉延佑里子、榎山さやか〕 ◆プログラムづくりへの助言:滋賀県障害者芸術文化活動支援センター	目標値	5校(約250名)
		県内の特別支援学級		実績値	5校(289名)
5	親子で楽しむ日本の伝統芸能 2021	令和3年8月4日(水)	◆第1部「親子で一緒にワークショップ体験」①落語(講師:林家染太) ②箏(同:日原暢子) ③日本舞踊(同:花柳禄春奈) ◆第2部「講師による古典芸能の披露」:林家染太(オリジナル落語)、日原暢子(「さくら変奏」・「千鳥の曲」・「瀬音」・「琵琶行」)、花柳禄春奈(「島の千歳」・「越後獅子」)	目標値	300
		◆公演:滋賀県立文化産業交流会館イベントホール内特設舞台「長栄座」 ◆ワークショップ体験:当館小劇場・練習室1・2		実績値	※公演114、ワークショップ45(落語16・箏15・日本舞踊14)

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> <p>劇場、音楽堂等の事業の活性化のための取組に関する指針の前文を念頭に、また当会館のミッション・ビジョンに基づき、会館が立地する湖北地域の特性と会館の多目的施設の特性を活かした「長栄座」公演等により、古典芸能を次世代に継承していくため、次の通り体系立てて行った。</p> <ol style="list-style-type: none">1 「普及啓発事業」・・・県内の小中学校にアーティストが出向き箏・尺八を児童生徒が体験する「和のじかん」、落語・日本舞踊・箏の体験と鑑賞機会を提供する「親子で楽しむ日本の伝統芸能」、小学生が箏・日本舞踊の稽古を重ね成果発表する「古典芸能キッズワークショップ」、キッズワークショップ卒業生による「箏曲ジュニア・アンサンブル」2 「人材養成事業」・・・プロを目指す箏の演奏家を育てる「邦楽専門実演家養成事業」3 「公演事業」・・・芝居小屋情緒のなかで一流の古典芸能に触れ、養成事業修了生も出演する「長栄座」公演「長栄座」10周年を機に令和3年度から、芝居小屋をこれまでの2日間から約1週間設営し「夏のフェスティバル」として、「長栄座」公演、「親子で楽しむ日本の伝統芸能」、当財団のびわ湖ホール声楽アンサンブルによる「美しい日本の歌」の3事業4公演、またプレ企画として、10年を振り返る上映会を行うなど、世代を越えて気軽に古典芸能を楽しめる多彩なラインアップとした。 <p>上記1～3の各事業を当初の計画通り、新型コロナウイルス感染症対策を講じて実施し、「普及啓発事業」の参加者数は、概ね目標を達成することができたが、「公演事業」の来場者数は、コロナ禍の影響を受け目標を大きく下回った。なお、「長栄座」10周年の節目に、地域資源である伝統文化の普及・振興に貢献したとして、令和3年度「地域創造大賞（総務大臣賞）」を受賞した。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>〈文化的意義〉</p> <p>古典芸能は一般の人も鑑賞する機会は少ないが、当会館が立地する湖北地域はさらにその機会が少ない。「長栄座」公演は、入場料金を抑えても質を落とさず、古典芸能と他分野とのコラボレーションなど、敷居が高いとされている人にも関心を持ってもらえる内容とし、観客のすそ野の拡大に努めた。その結果、新規来場者は全体の約35%、50代以下の来場者は全体の約40%となった。また、第3部「響鳴」はゆかりの地で再演され、県外でも高評価を得ている。さらに、「古典芸能キッズワークショップ」の箏に参加した児童が、中学生になって全国レベルの大会に出演し奨励賞を受賞、「箏曲ジュニア・アンサンブル」に参加している高校生からは、邦楽の専門課程のある大学に行きたいという声も聞けた。</p> <p>〈社会的意義〉</p> <p>先行きが見通せない時代であるが、本事業を通して、来場者や参加者に感動や希望をもたらし心の潤いや安らぎのひとつとなり、芸術文化の魅力やその意義を伝えることができた。本県の文化資源を活用したことで地域コミュニティの創造にもつながっている。また、「古典芸能キッズワークショップ」では、技術はもとより礼儀作法など、日本文化の魅力や豊かさを伝えている。</p> <p>〈経済的意義〉</p> <p>「長栄座」公演について、当会館が位置する米原は交通の要衝で、各駅の名所・名物等を織り込んだ第2部「駅名連歌まいばらはつ」、琵琶湖に浮かぶ竹生島の弁財天をはじめ日本三大弁財天をテーマにした第3部「響鳴」は、本県の魅力を全国に発信し、県外から約25%の来場者があった。関連企画として、ロビーで邦楽器系製作など、滋賀の伝統的工芸品や地場産業商品などの展示・販売を行った。また、新たに地元企業等13団体から協賛を得て、芸術文化と産業分野がつながるきっかけとなった。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

当館では、県北部における文化芸術の拠点として、また、古典芸能に重点を置いた劇場として、地域や施設の特性を生かし、「1.文化芸術の発信」、「2.文化・芸術資源の発掘と活用」、「3.文化・芸術活動の支援と人材育成」、「4.文化と産業の連携」および「5.活動と交流の拠点創出」の5つの実施方針を目標に掲げて、発信力と創造力の向上に努めた。

1.文化芸術の発信

令和3年度からの「長栄座」公演は、新しい演出家を迎え、3年掛かりで“次世代に繋ぐ”や“新たな誕生”を意味する「むすひ」をテーマに、日本を代表する古典芸能や様々なジャンルの一流の奏者、演者や地域の演奏者などが芝居小屋「長栄座」に集結し、地域、時間を結んでいくというコンセプトで公演制作を行った。3年計画の初年度ということで、演目や内容も手探りであったが、これまでの「長栄座」公演で培ったノウハウと新たな演出家の発想が融合され、多様なジャンルのコラボレーションでリニューアルした「長栄座」を演出した。アンケート結果でも、両日とも「初めて」の来館者が上位の数字を占めており、約25%が県外からの観客であり、“様々な地域を結んでいく”という狙いは一定程度達成できた。

2.文化・芸術資源の発掘と活用

「長栄座」公演では、2日間とも地元合唱団が参加し、古典芸能への関心を高めるとともに、地元の魅力を再発見する機会となった。また、「しゅはり」やキッズワークショップ日本舞踊卒業生の出演は、これまで当館がワークショップや養成事業などで地道に人材養成を積み重ねてきた成果が発揮できた。

また、文化芸術の普及啓発を図る目的でアーティストを学校へ派遣するアウトリーチ事業では、令和3年度より和楽器による「和のじかん」、それ以外の楽器での「アートのじかん」として実施した。コロナ禍であったが、学校からの要望も強く、それぞれ10校、5校の参加目標が、13校、5校と目標をクリアし、多くの児童・生徒に音楽を身近に届けることができた。

3.文化と産業の連携

「長栄座」公演の開催に合わせ、県内の伝統産業等に焦点をあて、「近江のあたらしい伝統産業展」を実施した。令和3年度は地場産業に加え、県や市の産業関連部署などと連携を図り出展を誘致することで、前年度の10団体から18団体に拡大できた。

4.文化・芸術活動の支援と人材育成

次代を担う小中学生を対象にしたワークショップ(箏・日本舞踊)、中堅演奏家のキャリアアップを目的にした講座や実践研修を実施し、地域文化の担い手の育成に努めた。

5.活動と交流の拠点創出

「古典芸能キッズワークショップ」「箏曲ジュニア・アンサンブル」「邦楽専門実演家養成事業」を実施することで、若手古典芸能実演家や次代の担い手の活動拠点となった。また、多様な事業を実施することで老若男女が集う交流の場を提供できた。

6.主な指標の成果について

(1)公演事業

- ①2公演の合計入場者数740名の目標に対し477名。コロナ禍の影響が大きく、目標を大幅に下回った。
- ②新規顧客入場率35%の目標に対し34.8%。ほぼ目標通りであった。
- ③人材育成、普及事業の若手演奏家の出演20名の目標に対し14名。コロナ禍の影響により出演人数を絞ったため、目標を下回った。
- ④地元文化団体の出演2団体の目標に対し2団体。目標通りであった。

(2)人材養成事業

- ①養成事業から「長栄座」公演への出演者数14名の目標に対し6名。コロナ禍の影響により出演人数を絞ったため目標を下回った。
- ②養成事業「修了演奏会」の出演予定者16名の目標に対し15名。ほぼ目標通りであった。
- ③「ユース箏アンサンブル習得コース」の受講者3名の目標に対し1名。目標は達成できなかったが、令和3年度から始めた「特別集中レッスンコース」には5名参加した。

(3)普及啓発事業

- ①「古典芸能キッズワークショップ」の各分野25名の参加目標に対し「日本舞踊」25名、「箏」19名。「日本舞踊」は目標通りであったが、「箏」は参加者の都合による直前のキャンセルも複数あり目標を下回った。
- ②「古典芸能キッズワークショップ」卒業生の「箏曲ジュニア・アンサンブル」への継続参加目標8名に対して9名。
目標を達成した。
- ③「和のじかん」の実施10校(500名)の目標に対し13校(614名)。目標を達成した。
- ④「アートのじかん」の実施5校(250名)の目標に対し5校(289名)。目標を達成した。
- ⑤「親子で親しむ日本の伝統芸能」のワークショップ3分野各10名の参加者数目標に対し「落語」16名、「日本舞踊」14名、「箏」15名。目標を達成した。また、ワークショップで講師による公演の入場者300名の目標に対し、114名。コロナ禍の影響が大きく、目標を大幅に下回った。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演1：長栄座伝承会「むすひ」

前年度1月の実施から半年余の7月末からの公演となったが、企画については前年度の10月から並行して行い、金沢や東京でも稽古や打合せを行うなどして、短期間ではあったものの計画的に進めることができた。

長引くコロナ禍を見越して座席設定をこれまでの440席から300席とした。収入減とはなるが感染症対策を講じて来場者にとって安心・安全の環境を整えることを優先した。

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
制作会議 スタート	出演者選 定	地元出演 者選定	R2年度 長栄座 公演	技術スタ ッフ会議	舞台図面 完成	背景映像 撮影	稽古音源 録音 記者発表	金沢リハ	東京リハ 芝居小屋 設営・公演	公演

人材養成1：滋賀県次世代創造発信事業 邦楽専門実演家養成事業

緊急事態宣言や例年にない大雪の影響で計画どおりに稽古を進めることが出来なかったが、稽古スケジュールを見直しながら無理のない事業の運営に努めた。

2月の成果発表公演を迎える頃、コロナ第6波となったためライブ配信も実施した。会館として初めての取り組みであったが、円滑に対応でき、今後の事業展開にも活用できる機会となった。

普及啓発1・2：滋賀県次世代創造発信事業「古典芸能キッズワークショップ」・「箏曲ジュニア・アンサンブル」

緊急事態宣言の発令に伴い稽古日数が減少したため、稽古日の振替や、「箏曲ジュニア・アンサンブル」では講師によるYouTube動画による自主練習など、内容を見直して、成果発表公演を予定通り開催した。

稽古回数が減ったことによる講師料の減、内容の簡素化による舞台スタッフの減により、事業費は当初の申請額を下回った。

普及啓発3・4：滋賀県次世代創造発信事業「和のじかん」・「アートのじかん」

11月から1月が学校アウトリーチのピークであるため、夏休みまでに実施校を募集し日程調整を図り、概ね計画通りに進めることができた。

連続した日程による交通費の減、ソロ演奏者の起用機会の増による出演費の減により、事業費は当初の申請額を下回った。

普及啓発5：親子で楽しむ日本の伝統芸能

体験教室の募集期間は1ヵ月程であったが、どの教室も定員を超える応募があった。普段、日本の伝統に触れる機会の少ない親子にとって、一日体験教室という気軽さが好評であった。また、令和3年度は芝居小屋「長栄座」で講師による古典芸能の披露をいただいたが、コロナ禍の影響等により来場者は目標に達しなかった。

講師による舞台公演は、バラエティに富んで見応えがあったが、想定以上に照明演出や舞台転換が伴い、技術委託料が増となり、事業費は当初の申請額を大幅に超えた。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

・視点1

(第一線の監修者を据えたメリット)

芝居小屋「長栄座」事業には、平成26年度から事業監修および舞台芸術アドバイザーとして京都市立芸術大学名誉教授の久保田敏子（文化庁文化財第4専門調査会委員、文化庁芸術祭審査委員を歴任。平成25年度京都市文化功労者表彰）を迎えている。日本の古典芸能全般を網羅する学識経験の豊富さでは、他の追随を許さない第一級の研究者で、芸術面の諸判断、広範な人脈によるキャスティングが可能である。

(多目的で自由な劇場空間を活用)

2,000人収容の当館イベントホールは、1階客席が可動席で全て収納することができる。そこに明治16年から昭和33年まで滋賀県長浜市に実在した芝居小屋「長栄座」をモデルにした仮設の芝居小屋を期間限定で復元し、この「癒しの芸能空間」＝「長栄座」で日本の古典芸能の奥深い魅力を発信するプロジェクトを平成23年度からスタートし、令和3年度で10周年を迎え、今年度から新たに「芝居小屋長栄座夏のフェスティバル」として、約1週間、様々な古典芸能の企画を提供した。

また、関連企画として公演当日に、ロビーには長浜市の和楽器絃の製造会社をはじめとする、滋賀県内の伝統産業を展示ブースに出展し、匠の技を現代に活かす姿をピーアールする貴重な機会としている。

(伝統文化の継承に10年継続して取り組む)

地域資源である伝統文化の普及・振興に貢献したことが評価を受け、令和3年度「地域創造大賞」（総務大臣賞）を受賞した。

(全国発信への地域間連携にむけて)

長栄座「むすひ」公演の第3部の「響鳴～日本三大弁財天と十五王子」では、日本三大弁財天の一つである相模江ノ島妙音弁財天と五王子を題材にした新作を初演。また、この「相模江ノ島妙音弁財天と五王子」の邦楽演奏曲は東京と江島神社で再演され、全国発信への期待を込めた地域間連携の新しいモデルケースともいえる展開をみせている。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

・視点2

（「長栄座」公演での成果）

第1部は「<邦楽アラカルト>～湖国の神在祭」と題し、邦楽や多ジャンルのコラボレーション作品を紹介した。初日は金沢の加賀宝生流能、2日目には金沢のフラダンススタジオと邦楽専門集団「しゅはり」が共演し、金沢と滋賀の地域文化の交流が実現した。また、落語「伊勢参宮神之賑」より「矢橋船」では、近江八景「矢橋の帰帆」で有名な矢橋橋からの大津まで船旅をするシーンが登場し、滋賀県民には親しみのある内容であった。

第2部は「駅名連歌～まいばらはつ」が交通の要衝であることに着目した演目を上演。米原駅～京都駅の琵琶湖線を取り上げて、駅名や各駅の名所や名産を読み込んだ歌詞を地元の2つの合唱団と、当館で養成した滋賀県邦楽集団「しゅはり」の箏・三弦の演奏に、キッズワークショップ（邦舞）卒業生が日本舞踊を披露し、当館で研鑽を積んだ成果を披露した。滋賀県民にとって馴染みのある琵琶湖線という題材を舞台化したことで、郷土愛や地域への関心につながった。また、「まいばらはつ」の琵琶湖線の駅名の書道作品を、滋賀県書道協会を通じて募集したところ、600点を超える作品が集まった。優秀作品は、舞台美術の一部として活用した。

第3部の「響鳴～日本三大弁財天と宇賀神将十五王子」では、日本三大弁財天の一つである相模江ノ島弁財天と弁財天の眷属の五王子を題材にして新作を初演した。作詞は千野喜資、作曲は萩岡松韻（東京藝術大学邦楽科教授、令和3年度日本芸術院賞受賞）。このテーマでは、日本三大弁財天の歴史等を、竹生島の弁財天の展示などで定評のある長浜城歴史博物館の学芸員にも指導を仰ぐなど、学究面でも滋賀県の学術機関とも連携を図った。

（人材養成事業での成果）

「邦楽専門実演家養成事業」では、日本の邦楽界を代表する箏奏者野村祐子（正絃社二代家元・作曲家・名古屋芸術大学客員教授）、池上眞吾（作曲家・東京藝術大学非常勤講師）、片岡リサ（大阪音楽大学特任准教授）、吉澤延隆（東海大学教養学部芸術学科非常勤講師）の4人を講師に迎え、中堅・若手の邦楽演奏家（箏・三味線・十七絃）の技術向上を目的とし、およそ半年間、月に2～4回の稽古を重ね、加えて、受講者の創造性を促す基礎知識を育むため、久保田敏子の講義も実施した。修了演奏会への出演で経験を積み、プロ演奏家としてのキャリア形成を図った。修了演奏会はコロナ禍のため、ライブ配信も行い、会場には地元の皆様が足を運んでくださり、充実した内容となった。

（普及啓発事業での成果）

「古典芸能キッズワークショップ」において箏と日本舞踊の2コースで小学生を対象に約4ヶ月間にわたって技術や礼儀作法などを実技指導し、成果発表会を実施。さらに上達を目指す子どもたちは、「箏曲ジュニア・アンサンブル」コースを受講することで小学生から一般まで一貫して箏が学べる環境を整備している。講師には、片岡リサほかを迎え、将来の湖国滋賀の邦楽界をリードできる人材育成に努めている。

「親子で楽しむ日本の伝統芸能」では、第1部では小学生とその保護者を対象にした子どものための落語、日本舞踊、お箏の一日体験教室を開催した。第2部では落語家、日本舞踊家、箏曲演奏家の3名のプロ講師がそれぞれの古典芸能を披露した。当館が毎年、実施している4ヶ月間の継続した古典芸能（箏、日本舞踊）キッズワークショップ参加者とは違い、全く体験したことがない子どもたちと保護者に一日限定で体験教室とプロの実演の醍醐味の両方を体感してもらうことで古典芸能への好感度を向上させることができた。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

当財団では、滋賀県文化振興条例および滋賀県文化振興基本方針に則り、舞台芸術をはじめとする芸術文化を振興する公益財団法人として、文化産業交流会館およびびわ湖ホールの県立2館の劇場を有機的に活用して、様々な分野と連携を図るとともに、県と密接な関係を基盤に運営を行っている。

また、当財団は、滋賀県文化振興基本方針の基本目標の実現に向けて、中期経営計画を策定し、その方針を推進するための経営戦略ならびに具体的な事業計画および収支計画に基づき、定量的・定性的な目標が実現できるよう、進行管理を行いながら取り組んでいる。

当館においては、「県北部の文化振興を担う拠点としての賑わいの創出」を目標に掲げ、古典芸能を柱とした事業を展開し、市町ホール、文化活動者・団体、学校、企業などと連携しながら、施設や地域の特色を活かし、県立の劇場・音楽堂としての使命を果たすべく、利用者・来場者のアンケート結果等も踏まえ各事業を評価・検証している。また、コロナ禍においても円滑に事業を推進できるように環境を整備し、オンライン会議やライブ配信などを行っている。

組織については、職員の年齢構成や専門性等を勘案し、計画的な正規職員の採用に努め、滋賀県の文化振興施策を推進する専門的集団としての組織体制の強化を図っている。当館では、令和3年度に管理課で1名、令和4年度に事業課で2名正規職員を採用した。

人事については、当館では、舞台芸術アドバイザーを配し、注力している古典芸能事業の水準を高めるとともに、専門的人材の育成を図っている。また、人事異動によりびわ湖ホール職員を当館に配置し、自主制作公演や広報営業の内容充実、および組織の活性化を図っている。さらに、人事評価制度を導入し、職員自ら設定した目標の設定に向けて、職員が発揮した能力および業績を把握・評価することにより、組織の使命や目標の達成ならびに職員の育成や能力開発につなげている。加えて、OJTや外部講師による研修等を実施するとともに、外部研修会へも積極的に参加させ、職員の専門性を高め資格の取得やコンプライアンス意識の向上に努めている。

財源確保については、平成31年度から財団に営業部を新設し、県域にわたる営業活動を当館およびびわ湖ホールと包括的に行うほか、びわ湖ホール友の会会員に当館の自主事業も案内するなど両劇場の相乗効果を図り、得られた収益等や経費縮減分を特定費用準備資金に積み立て、記念事業に充てている。また、公益法人、民間からの補助金等の獲得や、公益財団法人の優遇税制を活かした「夢キラリ文化基金」を設け、「伝統芸能」「次世代育成」等の事業への寄付を募るなどの取り組みを積極的に行っている。

管理運営については、施設利用者へのサービスはもとより、令和2年度より新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じ、安全・安心な会館運営に努めている。また、施設の更新工事や修繕工事を行い、令和3年度には、全館のトイレ洋式化改修工事を実施。令和4年度には小劇場の照明改修工事を実施する予定である。33年が経過した当館の施設整備について、引き続き設置者である県と協議しながら計画的な改修・修繕に努めていく。